

ブータンにおける環境保全型 グリーンテキスタイル II

活動地域  ブータン

つづける助成
3年目
実践

自然公園での研修会参加者	214人
草木染手織物展示ブース来場者数	160人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	90%



ブータン草木染め織物の展示会

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

ブータン国内の社会情勢や、新型コロナウイルスの影響など、不可抗力に事態に振り回され、七転び八起きしながら、プロジェクトをなんとか成し遂げた。

■ 工夫した点

日本に在住するブータン人青年たちが、イニシアチブをとり、ブータンの環境保全型循環社会、草木染めによる織物などについて、日本人に紹介した。

課題

農村に住む女性達が、積極的に里山文化の担い手となり、グリーン産業が確立されることが、環境保全及び里山の保全のための急務である。

目標

ブータンの山岳農村地帯の有機農業に従事する女性達が主体的に取り組み、環境保全型のグリーン産業を確立すること。

活動内容と成果

染色織物の講習会を開催。ブータン国立自然公園の環境専門家による環境教育を山村10か所で実施した。
日本においては、草木染織物を紹介した。ブータンの環境保全型循環社会の紹介や、草木染織物の展示会を日本の公立シルク博物館などで実施した。また、地方の児童館や公民館、高校で啓発活動を行った。



来日したブータン国王陛下に活動を報告した青年

全助成期間の活動を振り返って

新自由主義経済、新植民地政策、グローバル経済などの影響を大きく受けるブータンで、持続可能な環境保全の一助になればとプロジェクトを実施した。プロジェクトだけを評価するのであれば成果が大いにあった。しかしブータンという国のこの4年間の変遷を見ると、ブータンの循環型社会は首を立てて崩れかねない危機を迎えている。その中でハチドリの一とせずくのような思いで、プロジェクトを継続した。



ブータンの紹介の捜索をするブータン人青年

Building No.7, Flat No.501 (Near Hotel KISA),
Post Box No. 870, Chang Lam, Thimphu Bhutan
電話: +975-2-338089
FB HAB - Handicrafts Association of Bhutan



今後の展望

日本とブータンの労働省、外務省、農林省及び国立自然公園、また、愛媛グローバルネットワークなどの民間団体とも連携し、国際的な官民協働を実現していく。日本に在住するブータン人青年が活躍する活動を拡大し、日本人少年・青年及びブータン人の環境に関する意識を高め、人材育成をしていく。愛媛県など日本の地方自治体、官公庁との連携を図る。